

## 平成20年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	RIA(リッチ インターネット アプリケーション)技術者育成教育による就職支援、職業定着率向上支援		
法人名	学校法人 第一平田学園		
学校名	中国デザイン専門学校		
代表者	理事長 平田 眞一	担当者 連絡先	法人事務局 戸田 陽子 086-225-0791

### 1. 事業の概要

本事業は、基本的なホームページ制作ができる早期離職者や、基礎的なWeb関連業務等を行っているが、より高度な技術を学び直したいと思っている若年者に対して「付加機能」を持ったホームページ作成の最新技術を再教育するための講座を実施し、企業がほしい人材、逃したくない人材として再就職または職業定着率の向上を支援するものである。

インターネットホームページは、利用者が自分の好みでページをカスタマイズできたり、必要な情報を選んで自動的に表示させるといった、「付加機能を持ったホームページ」が主流になってきている。こうしたホームページを作成するプログラマー(=ただホームページが作れるだけでなく、データベースと連動させるなど付加価値の高い開発ができる人)に対する人材のニーズは高い。インターネットが広報媒体として人々の生活にすっかり溶け込んでいることや、情報の提供先は内需がほとんどで海外の景気の影響を直接受けないことも、その理由の一つであるという。

こうしたことから、若年離職者層に対してWebプログラマーとしての再教育を施し、業界ニーズとマッチした人材として輩出することの意義は高く、本事業にてRIA技術者育成教育に取り組むこととした。

### 2. 事業の評価に関する項目

#### ①目的・重点事項の達成状況

事業推進にあたり、今回のテーマであるRIA(リッチ インターネット アプリケーション)などの「付加機能」を持った開発が、業界でどのように評価され、人材ニーズがどうなっているか調査を行った。

その結果、RIAを使った開発案件が増えていること、「付加機能」を持った開発ができるエンジニアの採用ニーズが高い傾向にあることがわかった。ただし、回答率が7.6%と低かったことから、集計結果は傾向を把握するレベルであり、今後は調査期間を長く取ったり項目数を見直すなど、回収サンプル数を増やすことが課題として残った。

講座の題材となった「Flex」は、従来より少ない工数でプログラムやデータベースと連動したホームページが作成できるRIA開発ツールである。ただし、最新技術のためわかりやすい教材がなく、教材の書き起こしに時間がかかってしまい、講座開催時期の遅れにつながってしまった。

講座は平成21年2月に東京で行った。当初岡山地区で予定していたが、世界的な景気の急速な悪化の影響で、岡山などの地方都市は特に落ち込みが激しく、景気の影響による県内の産業が低迷、雇用情勢も悪化したことから急遽東京にて開催することとした。教材の遅れと重なり告知期間が短く、残念ながら学生20名に対して講座を展開、到達度をみることとした。

## ②事業により得られた成果

受講者に対して、今回の講座が有利な就職や雇用の継続につながると思うかどうかを問うアンケートでは、「非常に役立つ」と答えた者が7名(35.0%)、どちらかといえば役立つの12名(60.0%)と合わせて、95%の受講者が優位性を認める結果となっている。

コメントとしては、「先端技術を習得することに優位性を感じる」、「効率的な開発ができる」、「他のデータとの連携によって面白いことができそう(今後の可能性を感じる)」といった声が聞かれた。

なお、講座の題材に選んだ「Flex」は、従来より少ない工数でプログラムやデータベースと連動したホームページが作成できるRIA開発ツールであるが、最新技術のためわかりやすい教材がなかったため、本講座用に新たに開発したものである。

### ■Flexプログラミング入門－1 基本編

ホームページ開発の基礎を学んでいる人が、Flexの操作を20～30時間程度で学び、基本的な開発方法をマスターするための教材。

### ■Flexプログラミング入門－2 開発実践編

コンテンツ開発の流れを順を追って解説した演習用補助教材。

### ■Flexプログラミング入門 サンプルプログラム／データCD-ROM

「Flexプログラミング入門」に収録された各種プログラムと、その中で使用されている各種データ、演習用の写真素材等を収録。

## ③今後の活用

今回、景気悪化の影響と教材開発の遅れによって、岡山で講座を実施できなかったことは大変残念であった。しかし、告知・募集の期間を長く設けることや、Flex(RIA)のメリットに対する認知度を向上させることで、岡山地区の地域人材・地域産業の活性化につなげる取り組みにつなげていきたい。

## ④次年度以降における課題・展開

今回は2週連続の週末短期集中講座としたが、今後若年離職者や学び直しを希望する社会人を対象とした講座を設定する際は、参加しやすい日程や時間帯について詳細にリサーチを行うなど、精査して取り組むこととしたい。

また、全国津々浦々までインターネットが普及している今日、我が岡山からも最新技術関連情報の発信は十分可能な筈である。引き続き最新技術に関する情報を収集し、地域の商工会議所や産業振興団体なども連携し、専修学校による再チャレンジ支援教育に取り組んでいきたい。

### 3. 事業の実施に関する項目

#### ①履修証明書等

本講座の内容に該当する資格等はないため、履修証明は発行していない。

#### ②カリキュラムの内容

カリキュラムの概要は以下の通りである。

##### ■前提知識

- ・HTMLによるホームページを作成したことがある方
- ・XMLの文書構造・XPathが理解できている方
- ・ActionScriptを理解している方
- ・Javaなどのオブジェクト指向が理解できている方

##### ■到達目標

- ・Flexの基本的操作ができるようになる。
- ・データベースからデータをアクセスして表現することができるようになる。
- ・データベースにデータを格納できるようになる。

以下の項目につき、4日間全30時間で解説するとともに、パソコン実機を使った演習を行った。講座の最後には総合演習問題を提示し各自に作成させ、理解度を高めるよう配慮した。

1. Flexの概要
2. Flex Builderの基本操作
3. Flexコンポーネントの理解
4. Flexのコンポーネントを使う
  - コンポーネントの基本概念
  - コントロールコンポーネント
  - レイアウトコンポーネント
  - AlleyCollection
  - 制約ベースのレイアウト
  - ビューステート
  - ナビゲータコンポーネント
  - エフェクト
  - チャートコンポーネント
  - カスタムコンポーネント
5. 総合演習

#### ③講座の実施

##### ■講座実施概要

講座名: Flex (Rich Internet Application) を使いこなそう!

「RIAによるホームページ開発講座」

日 程: 平成21年2月7日(土)、8日(日)、  
14日(土)、2月15日(日) 全4回

時 間: 各日程とも 9:00~17:30(休憩60分)

会 場: 日本電子専門学校

対象者: 基本的なホームページ制作ができる方。  
基礎的なWeb関連業務等を行っているが、より高度な  
技術を学び直したいと思っている方 など

参加者: 20名

受講料: 無料

\* 講座終了後にアンケート調査を行い、講座に対する感想、就職状況(求職中の場合は就職に対する意識等)を聞いた。

事業開始当初は岡山での講座実施を計画し、地域の商工会議所や産業振興関連団体、本学園の卒業生の就職先企業などに本取り組みの紹介をしていたが、世界的な景気の急速な悪化の影響で、岡山などの地方都市は特に落ち込みが激しく、付加価値の高いホームページの開発ニーズ、かかる人材のニーズが県内では著しく減少していることがわかった。やむなく岡山地区での実施を断念、関連企業や開発案件の多い東京にて講座を実施することとした。また、教材の遅れと重なり告知期間が短く、残念ながら会場となった日本電子専門学校で20名による検証となった。

■受講者の反応(受講者アンケート)

●今回の講座は有意義でしたか(ためになりましたか)

	回答数	%
1) 大変有意義だった	2	10.0%
2) 有意義だった	16	80.0%
3) あまり有意義ではなかった	2	10.0%
4) 自分には合わなかった	0	0.0%
計	20	100.0%

④支援対象者(受講者)の状況

理解度や有効性を問う質問では、90%の受講者が理解を示しており、教材やカリキュラムなど講座全体としては高い評価を得ることができた。また「将来的に役に立つかどうか？」という問いに対しては95%の受講者が非常に役立つ/役立つと回答しており、RIA技術を身につけることのメリットを感じてもらえた結果と考える。

なお、受講者の就職先、目指している進路は以下の通りであった。

●どのような会社に就職(内定、または応募・求職中の場合は希望・予定)しましたか？

	回答数	%
1) Webデザイン関係	6	30.0%
2) Sler(システム開発会社)	8	40.0%
3) その他	5	25.0%
不明・未回答	1	5.0%
計	20	100.0%

Webデザイン関係、Slerの2つで7割を占めており、やはりこの分野に対する就職の意欲の高い人たちが関心を持ち、新技術の獲得に向けて努力している姿が伺える結果となっている。

なお、講座の会場となった日本電子専門学校の就職部にキャリアサポート面での協力を要請し、受講者から希望があった際には随時対応できる体制を用意した。「その他」、「不明・未回答」の者については、引き続き進路について追跡すると共に、希望や必要に応じてキャリアカウンセリングを実施することとしている。